インターディシプリナリーアプローチにおける手術用顕微鏡の活用

尾上正治
おのえ歯科医院

根管治療に代表される歯内療法は、根尖性歯周炎の予防と治療のために行われ、根管治療が終了した後、必要であれば築造処置を行い、最終修復として充填処置もしくは歯冠補綴が必要になる。根管治療後の修復処置は機能や審美の回復のためだけではなく、術後の根管系への再感染と歯の破折の予防つまり、正常な根尖性歯周組織の維持と歯の生存に関して重要な役割を担っている。言い換えれば歯内療法だけ充実させても修復処置が疎かであれば治療の成功を含めた歯の保存は望めない。このため歯内療担当医と補綴治療担当医の密な連携は必須であり、治療の精度を上げるため補綴領域でも歯内療法領域と同様に顕微鏡が使用されることは至極当然である。

今回、補綴担当医への連携を円滑に行うため、また根管治療後の修復を成功に導くため、漏洩と破折の予防という観点から顕微鏡を使用した歯内療法を行う立場としての留意点を術前、術中、術後に分けて解説する。

【略歴】

1994 年神奈川歯科大学卒業
2001 年おのえ歯科院開業
日本歯内療法学会専門医
AAE 会員